

日本政治学会 会報

The JPSA News

No.71

JUNE.2016

日本政治学会 2016 年度研究大会について

2016 年度企画委員長 齋藤 純一

日本政治学会は政治学に関する総合的な学会であり、他のより専門性の高い諸学会との関係においてどういう位置をとるべきかがこの間問われてきました。この問いには、これまでと同様に、そうした諸学会と並行して専門性の高い最新の研究成果を交換するとともに、それらの研究を相互に媒介する役割を担うことが本学会にはとくに求められている、と答えたいと思います。

これまで、共通論題や企画委員会の企画を中心に、専門分野を異にする会員に向けた問題提起が活発になされてきました。また、近年では、政治学の方法論を問い直す分科会などを通じて、たとえば規範理論的なアプローチと実証的なアプローチを接合する試みが検討されたり、思想史研究を深めていくうえで比較の視座はどのような解明の光を投じることができるかなどが問われてきました。

今年度研究大会の企画に当たっても、本学会が担うべき相互媒介の機能をさらに強化していくことを重視しました。また、これまでの企画委員会の方針に倣い、例年公募数が少ない研究分野の分科会を補強しました。

今年度は、公募企画、自由論題、ポスターセッションに計 57 件のご応募をいただきました。会場等の制約のためすべてを採用することはできませんでしたが、公募企画について 11 の分科会、自由論題についても 11 の分科会を設けることができました。また、ポスターセッションでは 8 つの報告が予定されています。皆様のご応募にあらためてお礼を申し上げます。ほかに 13 の企画委

員会企画の分科会、8 つの研究交流委員会企画の分科会、1 つの国際交流委員会企画の分科会があり、今年度の研究大会は計 44 の分科会から構成されることになりました（分科会の数としてはあるいは上限を越えているかもしれませんが、来年度の企画の際に検討が必要になるかもしれません）。

今年度の共通論題のテーマは「格差社会と政治」としました。ご存じのように、日本は税や社会保険を通じた再分配機能において OECD 加盟国中最低水準にあり、経済的・社会的な不平等は拡大しつつあります。今年度は、格差の拡大が、政治過程に、ひいては政治社会全体にどのような影響を及ぼしているか、またなぜ格差の問題に有効に対処できずにいるのかについてもあらためて考えてみたいと思います。

今年度の研究大会は、10 月 1 日（土）と 2 日（日）の 2 日間、立命館大学（大阪いばらきキャンパス）で開催されます。会員の皆様には、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。宿泊についても早めにご予約くださるようお願いいたします。

研究大会プログラムの作成・決定にあたっては多くの会員にお世話になりました。企画委員会からの依頼により司会、討論を引く受けてくださった会員諸氏、企画委員会、研究交流委員会、国際交流委員会の委員の方々、分科会会場の増設を快く手配してくださった開催校担当の佐藤満理事、そして、公募サイトの作成・管理でお世話になった首都大学東京の荒井紀一郎会員に心よりお礼を申し上げます。

日本政治学会 2016年度研究大会プログラム (報告タイトルは仮題)

10月1日 (土)	10月2日 (日)	
10:00 - 12:00 <u>分科会 A1-A9</u>	9:30 - 11:30 <u>分科会 C1-C9</u>	
12:00 - 12:20 次期理事会	11:30 - 12:30 総会	
12:20 - 13:00 第2回理事会	12:30 - 13:10 第3回理事会	
13:20 - 15:20 <u>分科会 B1-B9</u>	13:10 - 15:10 <u>分科会 D1-D8</u>	13:10 - 17:10 <u>政治学の フロンティア F1-F8</u>
15:40 - 18:00 <u>共通論題</u>	15:30 - 17:30 <u>分科会 E1-E9</u>	
18:20 - 20:00 懇親会		

▼10月1日 (10:00-12:00)

A-1: 投票で政治は変わるのか——選挙アカウント タビリティの検証 (企画委員会企画)

司 会：山田真裕 (関西学院大学)
 報 告：大村華子 (関西学院大学)「日本の有権者の経済投票と再分配政策」
 五野井郁夫 (高千穂大学)「参加民主主義と政治参加」(仮)
 松林哲也 (大阪大学)「投票、選挙結果、政策」
 討 論：荒井紀一郎 (首都大学東京)
 吉田徹 (北海道大学)

A-2: 日常生活と政治——ジェンダーの視点を踏 まえて (企画委員会企画)

司 会：田村哲樹 (名古屋大学)
 報 告：武田宏子 (名古屋大学)「政治課題としての日常生活」
 辻由希 (東海大学)「政治参加と／の日常性 (仮)」
 久保田裕之 (日本大学)「共同生活と集会的意思決定——家族の政治学に向けて」
 討 論：尾内隆之 (流通経済大学)

A-3: 「民本主義」再考 (企画委員会企画)

司 会：小川原正道 (慶應義塾大学)
 報 告：大川真 (吉野作造記念館)「吉野作造の代表制論」
 尾原宏之 (立教大学)「右から見た吉野作造」
 趙星銀 (日本学術振興会)「民本主義と戦後民主主義——「大衆社会」の問題を中心に」
 討 論：苅部直 (東京大学)
 千葉真 (国際基督教大学)

A-4: “政治的資源”としての時間——基地政策・ 平和構築・安定化の過程からの抽出 (公募企画)

司 会：高橋良輔 (青山学院大学)
 報 告：川名晋史 (近畿大学)「沖縄における基地集合の偏移と時間性——1966-1973」
 中内政貴 (大阪大学)「平和構築活動において「時間」が国際／現地アクターに及ぼす影響」
 中村長史 (東京大学大学院)「能力の優位と時間の劣位——安定化活動に

おける米国の挫折」

討 論：大庭弘継（九州大学）
池田丈祐（富山大学）

在外投票」

討 論：田中高（中部大学）
安井清峰（早稲田大学）

A-5：語られざる政治の思想史——プラトン、カント、ハイデッガーの間で（公募企画）

司 会：鎬木政彦（九州大学）
報 告：隠岐（須賀）麻衣（早稲田大学）「『目眩』後のプラトン——彼はなぜシユラクサイへ行ったのか」
隠岐理貴（日本学術振興会）「世界市民の郷愁——カントはなぜ故郷を離れなかったのか」
加藤哲理（名古屋大学）「沈黙の声を聴く——後期ハイデッガーにおける政治の所在」
討 論：鎬木政彦（九州大学）

A-6：行政改革以降の日本外交における制度的な変化とその影響（公募企画）

司 会：森脇俊雅（関西学院大学）
報 告：Beata Bochorodycz（アダム・ミツケヴィッチ大学）「小泉内閣におけるテロとの戦い——政策決定過程において2001年行政改革の影響分析を中心に」
Marcin Socha（ウッジ大学）「ポスト京都議定書に関する交渉と日本国内での議論」
Kard Zakowski（ウッジ大学）「小泉官邸による対北朝鮮政策」
討 論：金丸裕志（和洋女子大学）

A-7：MexAmerica——新しい移民コミュニティの形成・発展要因（公募企画）

司 会：吉野孝（早稲田大学）
報 告：前嶋和弘（上智大学）「アメリカの移民政策——政策の行き詰まりと今後」
山崎真次（早稲田大学）「メキシコ移民政策のダブルスタンダード」
高橋百合子（早稲田大学）「メキシコにおける2014年政治・選挙改革と

A-8：国際関係の容容（自由論題）

司 会：古城佳子（東京大学）
報 告：伊藤岳（東京大学大学院）「Violence diffusion shapes how civil conflicts end」
宮下豊（早稲田大学）「『現状維持国』と『修正主義国』という二分法の非現実性」
小久保康之（東洋英和女学院大学）「非EU加盟のEFTA諸国とEU統合」
討 論：中村英俊（早稲田大学）
古城佳子（東京大学）

A-9：自治体に関する政治・行政（自由論題）

司 会：市川喜崇（同志社大学）
報 告：石見豊（国士舘大学）「英国における自治体間連携によるまちづくりに関する一考察」
菊地端夫（明治大学）「米国カリフォルニア州における“ゲーテッドコミュニティ”の官民関係論——自治体と「私的政府」の協調と共創？」
羅一慶（中京大学）「政治的起業家による地方自治体の政治行政の変革——韓国ソウル市の事例分析を中心に」
討 論：佐藤克廣（北海学園大学）
市川喜崇（同志社大学）

▼次期理事会（12:00-12:20）

第2回理事会（12:20-13:00）

▼10月1日（13:20-15:20）

B-1：内政と外交・安全保障の接点——ポスト冷戦期の日本政治（企画委員会企画）

司 会：高安健将（成蹊大学）
報 告：宮城大蔵「冷戦後の外交安保問題と政党政治」
黒崎輝「冷戦後の日本の国内政治と

核・安保論議」

薬師寺克行「冷戦後の日米同盟関係と
日本政治の変容」

討 論：中北浩爾（一橋大学）

B-2：「陛下」の政治学——デモクラシーと君主制（企画委員会企画）

司 会：水島治郎（千葉大学）

報 告：君塚直隆（関東学院大学）「デモクラシーとイギリス王政——地上最後の王様？」

松尾秀哉（北海学園大学）「合意型デモクラシーにおける君主——ベルギーを事例に」

原武史（放送大学）「戦後日本におけるデモクラシーと天皇制——占領期を中心として」

討 論：細田晴子（日本大学）
宇野重規（東京大学）

B-3：「地域民主主義」の現在（企画委員会企画）

司 会：小原隆治（早稲田大学）

報 告：小野寺研太（東京大学大学院）「松下圭一の『革新』思想とその系譜」

新垣二郎（地方自治総合研究所）「戦後日本における自治会・町内会の地域政治的機能とその変遷」

安藤丈将（武蔵大学）「地域民主主義を再定義する」

討 論：進藤兵（都留文科大学）
今井照（福島大学）

B-4：代議制民主主義の実証分析（日本政治過程研究会）

司 会：小林良彰（慶應義塾大学）

報 告：谷口将紀（東京大学）「議院内閣制と政策——有権者・国会議員・内閣の政策位置」

飯田健（同志社大学）「政策選好、争点の重要性、内閣支持」

鎌原勇太（横浜国立大学）「政治参加と平等——投票率と一票の格差からの再検討」

討 論：真淵勝（京都大学）

森正（愛知学院大学）

B-5：政治思想における「アジア」問題——西洋と東洋の相互参照（公募企画）

司 会：川崎修（立教大学）

報 告：名和賢美（高崎経済大学）「古代ギリシア人の「アジア」観と同胞意識の深化（仮）」

安藤裕介（日本学術振興会）「18世紀フランスにおける統治改革と中国モデル——フィジオクラットからイデオログまで（仮）」

松田宏一郎（立教大学）「日本の近世・近代における「アジア」（仮）」

討 論：渡辺浩（法政大学）

B-6：『ユートピア』出版500年——1516年と現代（公募企画）

司 会：高野清弘（甲南大学名誉教授）

報 告：菊池理夫（南山大学）「モアの『ユートピア』と現代」

河野雄一（慶應義塾大学）「トマス・モア『ユートピア』とエラスムス作品における公平と格差」

厚見恵一郎（早稲田大学）「イタリアにおける反キケロ主義の諸相とユートピア（仮）」

討 論：田上雅徳（慶應義塾大学）

B-7：若者の政治参加Political Participation of the Youth（国際交流委員会企画）

司 会：ケネス・マッケルウェイン（東京大学）

報 告：Sarah Pickard（Université Sorbonne Nouvelle—Paris 3）, "To enfranchise or not to enfranchise?: A comparison of debates on lowering the voting age for referenda in Scotland (2014) and the United Kingdom (2016)"

韓国からの派遣2人（未定）

討 論：スティール若希（東京大学）、もう1人（未定）

B-8：比較政治（自由論題）

- 司 会：粕谷祐子（慶應大学）
報 告：Konrad Kalicki（Harvard University）
"SECURITY FEARS AND BUREAUCRATIC RIVALRY: The Politics of Foreign Labor Admission in Japan and Taiwan"
久保浩樹（ライス大学）・Royce Carroll（ライス大学）「ヨーロッパにおける政策空間と代議制民主主義の計量分析（仮）」
荒木宏（作新学院大学）「「公-私」政策変容と年金体制の比較分析」
討 論：上神貴佳（岡山大学）

B-9：国際政治思想（自由論題）

- 司 会：池田丈祐（富山大学）
報 告：大原俊一郎（亜細亜大学）「古典的国際政治論としてのドイツ歴史学派」
大山貴稔（筑波大学大学院）「「国益」概念の変遷に見る戦後日本の言説政治——政治的言説と国際政治学の連関に着目して」
討 論：芝崎厚士（駒澤大学）

▼共通論題（15:40-18:00）

「格差社会と政治」

- 司 会：齋藤純一（早稲田大学）
報 告：西澤由隆（同志社大学）「世論調査による政治的格差の時系列分析」
三浦まり（上智大学）「ジェンダー・ギャップと選挙——政党行動からの分析」
木部尚志（国際基督教大学）「政治的平等と格差——平等主義的政治理論の視点から」
討 論：宮本太郎（中央大学）
湯浅誠（法政大学）

▼懇親会（18:20-20:00）

▼10月2日（9:30-11:30）

C-1：民主主義の衝突？——危機から競合へ（企画委員会企画）

- 司 会：向山恭一（新潟大学）
報 告：山崎望（駒澤大学）「危機の時代における民主主義——民主主義の主体をめぐって（仮）」
松尾隆佑（法政大学院）「ステークホルダー・デモクラシーの複数性（仮）」
高橋良輔（青山学院大学）「競合するデモクラシー——NGOアドボカシーの葛藤（仮）」
討 論：小川有美（立教大学）
山本圭（岡山大学）

C-2：日本の政治学におけるマックス・ウェーバーの遺産（企画委員会企画）

- 司 会：野口雅弘（立命館大学）
報 告：蔭山宏（慶應義塾大学名誉教授）
「ウェーバーとワイマール」
石井知章（明治大学）「戦後政治学におけるマックス・ウェーバーと中国」
ヴォルフガング・ザイフェルト（ハイデルベルク大学名誉教授）「マックス・ウェーバーと丸山眞男における「遅れている」社会——類似点と相違点」
討 論：今野元（愛知県立大学）

C-3：個別自治体の政治学—事例でも標本でもなく（企画委員会企画）

- 企画委員：金井利之
司 会：金井利之（東京大学）
報 告：今村都南雄（中央大学名誉教授）「大牟田調査研究：二つの難題～その歴史をふり返って～」
佐藤学（沖縄国際大学）「名護市政研究——沖縄都市の典型と異形の振幅」
嶋田暁文（九州大学）「海士町は「地方創生」のモデルたりうるか？——

「一般化」と「ケーススタディ」の
意義と限界」

討 論：原田晃樹（立教大学）

C-4：官僚制とガバナンス——専門と総合をめぐる歴史的展開を考える（戦前戦後・比較政治史研究フォーラム）

司 会：村井良太（駒澤大学）

報 告：柏原宏紀（関西大学）「開明派官僚と参議の「政官関係」形成史」

若月剛史（成蹊大学）「昭和戦前期における「技術」をめぐるガバナンス——土木系技術官僚を中心として」

大前信也（同志社女子大学）「臨時軍事費特別会計の政治的意味——大蔵省の「戦争責任」」

討 論：清水唯一朗（慶應義塾大学）

前田健太郎（東京大学）

C-5：環境政治の展開（臨床政治学会）

司 会：宗像優（九州産業大学）

報 告：高野恵亮（嘉悦大学）「環境政策と議員立法」

岡崎加奈子（法政大学）「環境政策の形成と国会・政党の審議制度の変容」

勝田美穂（岐阜経済大学）「環境問題と市民運動——歴史展開のなかで」

討 論：渡邊智明（九州大学）

土肥勲嗣（久留米大学）

C-6：「18歳選挙」の政治学（公募企画）

司 会：杉田敦（法政大学）

報 告：荻部直（東京大学）「「市民」と「公共」のあいだ（仮）」

羽場久美子（青山学院大学）「欧州のネット選挙と若者の右傾化傾向——EU各国の事例から」

佐々木信夫（中央大学）「地域・自治・まちづくりと若者たち」

討 論：古城佳子（東京大学）

西川伸一（明治大学）

C-7：資源地政学（公募企画）

司 会：山本武彦（早稲田大学名誉教授）

報 告：宮脇昇（立命館大学）「内陸国の資源輸送をめぐる政治」

横田匡紀（東京理科大学）「資源・エネルギー・環境の相互連関をめぐる政治」

玉井雅隆（立命館大学）「北極海航路の政治」

討 論：上久保誠人（立命館大学）

湯浅剛（広島平和研究所）

C-8：投票と熟議（自由論題）

司 会：松本正生（埼玉大学）

報 告：前田幸男（東京大学）「投票選択の分析——内閣支持が果たす役割」

白崎護（関西外国語大学）「投票行動におよぼすインターネット情報の影響——2013年参議院選挙の分析」

三村憲弘（武蔵野大学）「熟議の政治的メカニズム——党派性・知識・イデオロギー」

討 論：中村悦大（愛媛大学）

稲増一憲（関西学院大学）

C-9：比較政治史・外交史（自由論題）

司 会：内田みどり（和歌山大学）

報 告：板倉孝信（早稲田大学）「反革命戦争期の英国における納税者の増税批判——所得税帳簿から見る徴税過程の実態」

豊田紳（早稲田大学）「独裁体制において、なぜ野党か——メキシコとソ連の比較分析」

番定賢治（東京大学大学院）「普遍的国際秩序のなかの移民問題と日本外交——国際連盟における議論を中心に」

討 論：水島治郎（千葉大学）

内田みどり（和歌山大学）

国吉知樹（早稲田大学）

学 会 ニ ュ ー ス

▼総会 (11:30-12:30)

第3回理事会 (12:30-13:10)

▼10月2日 (13:10-15:10)

D-1: 安全保障論の再検討 (企画委員会企画)

司 会: 遠藤誠治 (成蹊大学)

報 告: 石田淳 (東京大学)「抑止論と安心供
与論: 安全保障の2つの方法」(仮)

柄谷利恵子 (関西大学)「人の移動と
安全保障」(仮)

篠田英朗 (東京外国語大学)「平和構
築と安全保障」(仮)

討 論: 遠藤乾 (北海道大学)

D-2: 政治思想史のナラティブ——歴史叙述と素 材選択 (企画委員会企画)

司 会: 小田川大典 (岡山大学)

報 告: 関谷昇 (千葉大学)「ナラティブとし
ての社会契約説成立史」

竹澤祐丈 (京都大学)「思想史の通史
的記述と素材選択」(仮)

討 論: 犬塚元 (東北大学)

安武真隆 (関西大学)

D-3: 現代日本の選挙過程・立法過程に関する実 証分析 (現代政治過程研究フォーラム)

司 会: 谷口尚子 (慶應義塾大学)

報 告: 三輪洋文 (学習院大学)「現代日本人
の価値観とその党派的対立構造」

梅田道生 (愛媛大学)「政党党首によ
る参院選選挙区訪問の影響の検証」

三谷宗一郎 (慶應義塾大学大学院)「有
効期限の明記は「政策終了」を促す
か——時限立法の実態調査」

討 論: 前田幸男 (東京大学)

境家史郎 (首都大学東京)

D-4: 欧米諸国におけるガバナンスの機能不全と 異議申立ての諸相 (欧米政治研究会)

司 会: 菅原和行 (釧路公立大学)

報 告: 前嶋和弘 (上智大学)「アメリカの反
エスタブリッシュメント運動 (仮)」

八十田博人 (共立女子大学)「イタリ

アの五つ星運動 (仮)」

渡辺容一郎 (日本大学)「イギリスの
欧州懐疑主義運動 (仮)」

討 論: 榎田久代 (敬愛大学)

大八木時広 (日本大学)

D-5: 「迷惑施設」をめぐる政治過程 (現代地域 政治研究会)

司 会: 照屋寛之 (沖縄国際大学)

報 告: 出水薫 (九州大学)「迷惑施設をめぐ
る「距離」と「当事者性」の政治過
程——原発再稼働問題による検討」

平井一臣 (鹿児島大学)「原発再稼働
問題をめぐる政治過程——川内原発
再稼働問題を中心に」

土肥 勲嗣 (久留米大学)「川辺川ダ
ム建設をめぐる政治過程 (仮)」

討 論: 岡田浩 (金沢大学)

白鳥浩 (法政大学)

外山公美 (立教大学)

D-6: 日本政治史 (自由論題)

司 会: 後藤新 (武蔵野大学)

報 告: 笹米地真理 (法政大学)「琉球処分」
をめぐる日清交渉再考——「尖閣諸
島問題」の起源としての沖縄帰属問
題」

萩原淳 (京都大学大学院)「昭和初期
の枢密院と二大政党——「枢密院の
政治化」をめぐる政治構造の再検
討」

山口希望 (法政大学大学院)「敗戦直
後の衆議院調査会議会制度特別委員
会における選挙制度改革について」

討 論: 玉井清 (慶應義塾大学)

小山俊樹 (帝京大学)

D-7: 政治思想 (自由論題)

司 会: 田村哲樹 (名古屋大学)

報 告: 谷本純一 (福岡教育大学)「近代のア
ポリア——例外状態、単一性、複数
性」

山田陽 (駒沢大学・神奈川大学)「熟

議民主主義論における代議制の意義
——熟議システム論の可能性」

稲永祐介（大阪市立大学）「国家への
忠義——国家エリートの比較歴史社
会学」

討 論：田中拓道（一橋大学）
大竹弘二（南山大学）

D-8：公共政策（自由論題）

司 会：岡本三彦（東海大学）
報 告：豊福実紀（東京大学）「配偶者控除制
度にみる日本の租税政策の展開」
森山花鈴（南山大学）「自殺対策の政
策形成過程と内閣府の役割」
野口暢子（長野県短期大学）「公共施
設建設の是非を問う住民投票の背景
と意義」

討 論：北村亘（大阪大学）
岡本三彦（東海大学）

▼10月2日（15：30-17：30）

E-1：民主的正統性とガバナンス——1990年代の 政治・行政改革をふりかえる（企画委員会企 画）

司 会：中野晃一（上智大学）
報 告：内山融（東京大学）「官邸主導・政治
主導の展開と帰結——過剰な『英国
化』？」
大山礼子（駒沢大学）「忘れられた改
革——国会改革の現状と課題」
山口二郎（法政大学）「制度改革は政
党政治をどう変えたか」

討 論：マッケルウェイン・ケネス（東京大学）
中野晃一（上智大学）

E-2：立憲主義と政治（企画委員会企画）

司 会：千葉真（国際基督教大学）
報 告：安武真隆（関西大学）「立憲主義と
Fortuna——モンテスキュー『法の
精神』と18世紀ヨーロッパ」
山岡龍一（放送大学）「立憲主義と政
治的リアリズム——ロックにおける
信託概念と国王大権論」

討 論：愛敬浩二（名古屋大学）
萩原能久（慶應義塾大学）

E-3：「熟議民主主義」研究の理論と方法（政治 学方法論研究会）

司 会：平野浩（学習院大学）
報 告：池田謙一（同志社大学）「オンライン
ディスカッションは政治的寛容性を
もたらすか——二種類の集団の異質
性の効果の実験研究」
坂野達郎・澁谷壮紀（東京工業大学）
「高レベル放射性廃棄物処分に関す
る討論型世論調査実験——オンライ
ン上の小集団討議の効果について」
坂井亮太（早稲田大学）「熟議民主
主義研究における中範囲の理論は可能
か？——熟議における「理想理論」
と「非理想理論」

討 論：田村哲樹（名古屋大学）
飯田健（同志社大学）

E-4：連立政権におけるジュニアパートナーの研究 （現代政治学研究会）

司 会：網谷龍介（津田塾大学）
報 告：岩崎正洋（日本大学）「連立政権下の
ジュニアパートナーの問題」
安井宏樹（神戸大学）「ドイツにおけ
るジュニアパートナーとしての連立
政権参加」
新川匠郎（ベルリン自由大学）「シュ
レスヴィヒ・ホルシュタイン州での
大きな連立パートナー——ドイツと
オーストリアの州の比較分析から」
討 論：網谷龍介（津田塾大学）
古賀光生（二松学舎大学）

E-5：一票の格差に関する実証研究（公募企画）

司 会：粕谷祐子（慶應義塾大学）
報 告：勝又裕斗（東京大学）「一票の格差と
補助金支出のRDD推定」
名取良太（関西大学）「都道府県議会
選挙における一票の格差——その実
態と影響」

東島雅昌（早稲田大学）「一票の格差が選挙不正および選挙暴力に与える影響」

鷲田任邦（早稲田大学）「一票の格差の規定要因——マレーシアを事例に」

討 論：和田淳一郎（横浜市立大学）

鎌原勇太（横浜市立大学）

E-6：批判的安全保障研究（CSS）の新たな展開（公募企画）

司 会：南山淳（筑波大学）

報 告：北川真也（三重大学）「戦争による生の実質的包摂——地中海という境界地帯からの一考察」

前田幸男（創価大学）「領土と聖性の観点から批判的安全保障研究（CSS）を練り直す」

土佐弘之（神戸大学）「批判的動物研究（ANT）の観点からのグローバル内戦を考察する」

討 論：和田賢治（武蔵野学院大学）

黒田俊郎（新潟県立大学）

E-7：大規模災害時における自治体と自衛隊の連携に関する法制度の現状と課題（公募企画）

司 会：牛山久仁彦（明治大学）

報 告：田村達久（早稲田大学）「自衛隊の災害派遣をめぐる法と制度」

伊藤剛（明治大学）「自衛隊から見た自治体災害派遣と国際比較」

山岸絵美理（明治大学）・三浦正士（日本都市研究センター）「大規模災害時の災害派遣の連携と多様性」

討 論：幸田雅治（神奈川大学）

E-8：政治過程（自由論題）

司 会：高安健将（成蹊大学）

報 告：水田岳志（一橋大学経済研究所）「日本における政治資金構造の社会的ネットワーク分析」

深谷健（武蔵野大学）「規制とレントの実証分析——政治制度は市場をいかに規定するのか？」

武居寛史（東京大学大学院）「集団における公平性への選好の進化」

討 論：曾我謙悟（京都大学）

E-9：行政学（自由論題）

司 会：金井利之（東京大学）

報 告：西東克介（弘前学院大学）「教育行政「専門職」・アカウンタビリティ・組織」

小森雄太（明治大学）・松岡信之（明治大学）「行政管理に関する基礎的研究——「管理官」に注目して」

河合晃一（東北大学）「中央省庁新設の政治過程における政官関係」

討 論：伊藤正次（首都大学東京）

今野元（愛知県立大学）

▼政治学のフロンティア（10月2日 13:10-17:10）

F-1：佐藤智美（日本安全保障危機管理学会）「サイバー人材不足の解決策に関する一考察」

F-2：福井英次郎（ジャンモネ EU研究センター（慶應義塾大学））「大規模災害時における地方自治体の外国への情報発信」

F-3：平山実（東京海上日動火災保険株式会社）「政治家輩出システムの比較研究——日本政策学校、TOKYO自民党政経塾、松下政経塾を中心に」

F-4：北村浩（公益財団法人政治経済研究所）「ソーシャルワークにおける専門知をめぐる問題——規範的政治理論の観点から」

F-5：李正吉（名古屋大学）「金融危機以後の国際関係の変化と自民党政権の再成立との関連性——保守政権による安保関連の言説形成過程を中心に」

F-6：平野淳一（甲南大学）「市長の行財政改革：その手法と市議会・有権者の反応」

F-7：上ノ原秀晃（文教大学）「2016年参議院選挙におけるソーシャルメディア——「ネット選挙」の継続と変化」

F-8：田中智和（上宮高等学校）「「泡沫候補の研究」を考える」

研究大会報告論文の公開・入手方式について

日本政治学会事務局

日本政治学会では、報告論文をウェブページ上に公開したうえで、ダウンロードにより会員が各自でご入手いただく方式を採用し、研究大会期間中の報告論文の販売は行っていません。これは、販売・頒布用の報告論文の印刷といった報告者をはじめとする方々の負担を軽減することを目的とした方式です。本年度も同様の方式を採用させていただきますたく存じます。

なお、ウェブページを経由した報告論文へのアクセスは会員の方々に限定させていただきます。準備が整い次第、会員の皆様には閲覧・ダウンロードのためのパスワードをお知らせいたします。また、報告論文の閲覧・ダウンロード期間は、研究大会期間をはさんでその前後約2週間ずつを予定しております。以上、今年度も皆様のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

研究大会開催校（立命館大学）からのお知らせ

2016年度大会・研究会は、10月1日（土）、2日（日）の両日、立命館大学大阪茨木キャンパスにて開催されます。A棟2階・3階を中心に会場を設けておりますが、土曜日に経営管理研究科が入学試験をA棟4階で実施する予定となっておりますので、政治学会側はA棟2階入り口から入り2・3階を使用、経営管理研究科の入試はA棟1階から入り、4階を使用という形で動線を分けるつもりです。キャンパス各所に要員を配置して案内をさせる予定ですが、掲示、案内などに従っていただくよう、お願いいたします。キャンパス内建物の配置などは以下をご参照ください。

<http://www.ritsumei.ac.jp/file.jsp?id=229844&f=.pdf>

①参加申込

今回の大会・研究会ではインターネットによる事前参加申込みを受け付けますので、氏名、所属機関、参加予定分科会、懇親会への参加如何、昼食弁当の要不要など、所要事項を指示に従ってお示しください。受付サーバの準備が出来ましたら学会のホームページ、ML等でURLをお知らせしますので、お申し込みくださるようお願いいたします。懇親会費は、当日会場受付にてお支払いいただきますようお願いいたします。また、昼

食弁当につきましても、弁当券を会場受付にてお求めください。

②会場ならびに会場アクセス

会場は立命館大学大阪茨木キャンパスです。JR東海道線茨木駅よりA棟北2階入口まで徒歩5分、阪急南茨木駅よりA棟南1階入口まで徒歩10分、大阪モノレール宇野辺駅よりA棟南1階入口まで徒歩7分となっております（A棟南1階入口から入られる方はエスカレーターにて2階まで案内する予定です）。アクセス情報は以下をご参照ください。

<http://www.ritsumei.ac.jp/rs/r2020/campus/oic/access/map.html/>

③昼食

開催日は土日のため、大学内の飲食施設で営業しているところは限られております。また、近隣の飲食店もJR線を渡ったところにあるイオンモール4階の食堂街（昼休みの時間に行って食事し、帰ってくるには少し手間取ります）を除き、あまり営業しているところがありません。弁当（お茶付き700円）を用意しますので、受付にて食券をお買い求めいただき、C棟1階のOICカフェテリアにて弁当と引き替え、食べていただけ

ば、と思います。お申し込みの方は、なるべく釣り銭の要らないよう、小銭をご用意くださいますよう、お願いいたします。

④懇親会

大会初日の懇親会は、キャンパス内（OICカフェテリア）にて行います。懇親会費は5000円を予定しております。

⑤託児所

託児所は会場には開設しませんので、あらかじめご了解いただきますようよろしくお願いいたします。

⑥宿泊

昨今の海外からの観光客の増加等の影響で、宿泊できるホテル・旅館を見つけることがかなり困

難になっております。開催校では宿泊の斡旋は行いませんので、プログラムをご参考になさって、早めにご自身で宿泊のご予約をなさることをお勧めいたします。

学会MLに登録されている方は、4月29日16時配信のメールをお読みください。宿泊に関する参考情報を記載しております。茨木市にはホテルがあまりありませんので、JR沿線、新大阪、大阪、京都などの駅周辺、大阪国際空港（伊丹）周辺などをお探しくささいと記しています。

問い合わせ先：佐藤 満

satoumit@sps.ritsumei.ac.jp

Tel: 072-665-2343

立命館大学政策科学部

〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町2-150

『年報政治学』独立論文公募のお知らせ

査読委員会委員長 谷口 尚子

『年報政治学』では論文を公募しています。公募論文は、「特集」テーマに関連した「特集論文」と、特定のテーマにとらわれない「独立論文」の2種類に区分されます。「独立論文」は、特定の締切り期日を設けず受け付けています。ただし編集の都合上、2017年度第1号（2017年6月刊行予定）に掲載を希望される会員は、2016年10月20日までに下記の送付先に原稿をご提出ください。公募論文には査読による審査が行われます。審査を公正かつ迅速に行うため、正副委員長のほか5名の委員からなる査読委員会が設けられています。査読委員会は、原則として会員の中から査読者を選び、査読結果にもとづいて掲載論文を確定いたします。論文投稿の詳細については、日本政治学会ホームページに掲載されている「論文投稿規程」および「査読委員会規程」をご覧ください。なお、二重投稿は規定により禁止されていることを申し添えます。

*原稿送付先：

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1
慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科「谷口尚子研究室」内

日本政治学会査読委員会

電子メール：naoko.taniguchi@sdm.keio.ac.jp

*投稿規程

独立論文・特集論文ともに学会ホームページ (<http://www.jpsa-web.org/toukou.html>) に掲載されている投稿規程に則り、メールおよび郵送にて上記へ送付して下さい。投稿規程により、未発表でない論文、論文の分量（注、参考文献、図表を含め原則20,000字以内）を超過している論文、また応募時点の年度の会費を納入済みでない会員の論文は受理できませんので、投稿前に必ず規程をご確認ください。分量の計算については、<http://www.jpsa-web.org/bunnryou.html> を併せてご参照ください。

『年報政治学』2017年度第I号特集論文公募のお知らせ

2017年度第I号年報委員長 古城 佳子
査読委員会委員長 谷口 尚子

2017年度第I号（2017年6月刊行予定）のテーマは「世界経済の変動と政治秩序（仮題）」です。

世界金融危機に顕著なように、経済のグローバル化の進展に伴う世界経済の変動は、国内政治及び国際政治の秩序に大きな影響を与えています。市場と政府（国家）の関係については、国際政治経済学や比較政治学において多くの研究がなされてきましたが、近年、改めて世界経済の変動が政治秩序にどのような変容をもたらすのかについて

の関心が高まっています。国際政治経済学、比較政治学にとどまらず、歴史、政治理論も含む多様な分野からの意欲的な投稿をお待ちしています。

原稿の締め切りは2016年10月20日（消印有効）とします。投稿原稿は学会ホームページ（<http://www.jpsa-web.org/>）に掲載されている投稿規程に則り、メールおよび郵送にて、査読委員会宛にご送付下さい。

『年報政治学』2017年度第II号特集論文公募のお知らせ

2017年度第II号年報委員長 久米 郁男
査読委員会委員長 谷口 尚子

2017年度第II号（2017年12月刊行予定）のテーマを「政治分析方法のフロンティア」としました。

近年の政治学研究は、高度な計量分析やゲーム理論、自然実験、実験室実験やフィールド実験等新機軸の分析手法をレパートリーに加え大きく発展してきました。今回の特集では、このような新規の分析手法の新しさや方法的洗練に注目するのではなく、その方法によって開きうる新しい研究

の地平を示すことを目指します。そこで、このような趣旨を踏まえた研究論文の投稿を募りたいと思います。多くの皆さんからの投稿をお待ちします。

原稿の締め切りは2017年3月20日（消印有効）とします。投稿原稿は学会ホームページ（<http://www.jpsa-web.org/>）に掲載されている投稿規定に則り、メールおよび郵送にて、査読委員会宛にご送付ください。

英文雑誌論文公募のお知らせ

英文雑誌編集委員会委員長 西川 伸一

日本政治学会の英文雑誌 *Japanese Political Science Review* 第3号は2016年8月の刊行予定です。オンライン・ジャーナルのメリットを発揮するため、原稿提出についてこれまで特段の締切日は設定してまいりませんでした。刊行予定から考えて、6月末日までにご投稿いただければ幸いです。以下の要件をご確認のうえ、ふるってご応募ください。

1. 応募資格

日本政治学会の会員であり、応募の時点で当該年度の会費を納入済みの会員。

2. 既発表論文投稿の禁止

応募できる論文は未発表のものに限ります。

3. 二重投稿の禁止

同一の論文を本英文雑誌以外に同時に投稿することはできません。

4. 論文の分量および執筆にあつての注意事項

日本政治学会のHP内にある *Japanese Political Science Review* のページに記載されています。これを遵守してください。

5. 投稿申込書およびスタイルガイド

同じページ下段にリンクされている英文投稿申込書をダウンロードして使用してください。詳細なスタイルガイドもここから閲覧できますので、執筆にあたってはこれに準拠してください。

6. 論文の送付方法と送付先

電子メールにて nisikawa1116@gmail.com (西川伸一) まで。

2015年度日本政治学会第4回理事会議事録

1. 日 時：2015年12月19日（土）15時30分～17時10分
2. 場 所：〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学早稲田キャンパス3号館10階第一会議室
3. 出席者：辻中豊（理事長）、秋月謙吾、浅野一弘、池谷知明、宇野重規、小川有美、大西裕、河野武司、齋藤純一、佐藤満、田中愛治、谷口尚子、玉井清、田村哲樹、照屋寛之、名取良太、西川伸一、横田正顕（以上、理事）、竹中佳彦（常務理事）、岡本哲和（以上、監事）、近藤康史、森裕城（以上、幹事）

4. 議 題

〈審議事項〉

(1) 入退会承認について

13名の入会申請があり、いずれも承認された（敬称略）。

一般会員（8名）

岡田勇（名古屋大学）、松田宏一郎（立教大学）、鈴木潔（専修大学）、若月剛史（成蹊大学）、安藤裕介（東京大学学振PD）、Jackie F. Steele（ステール若希）（東京大学）、一ノ瀬佳也（立教大学）、坂野達郎（東京工業大学）

学生会員（5名）

水越和摩（University College London）、本間剛（東京大学大学院）、小林悠太（大阪大学大学院）、松尾拓也（放送大学大学院）、長史隆（立教大学大学院）

前回理事会時の会員数1,794名、この間の退会者数1名（逝去による退会）であり、今回の入会承認者13名を加えた結果、会員数は1,806名（終身会員：154名、シニア会員：51名、一般会員：1,432名、学生会員：169名）となった。

(2) 『年報政治学』のデータベース EBSCOhost への収録について

竹中常務理事より、配付資料に基づき、10月の理事会で *Japanese Political Science Review* のデータベース EBSCOhost への収録が承認されたことから、EBSCO社と契約書の締結に入ろうとしたところ、契約書（案）中に『年報政治学』も収録することが記載されていたため、現在、懸念事項について先方に照会しているが、現時点で返事をもっていないとの説明があった。竹中常務理事より、①懸念事項が解消した場合、EBSCOhost に *Japanese Political Science Review* に加えて『年報政治学』も収録すること、②懸念事項が解消しない場合は『年報政治学』は契約の対象としないこと、③具体的な契約の締結については事務局に一任してもらうことが提案され、承認された。

(3) 『年報政治学』の J-STAGE へのアップロードについて

竹中常務理事より、配付資料に基づき、『年報政治学』の J-STAGE へのアップロードについて、(i) 2010年 I 号～2012年 II 号は今年度予算によって PDF 化して公開する、(ii) 2013年 I 号～2014年 II 号は今年度予算によって PDF 化して各号の刊行より3年後の公開設定を行う、(iii) 2007年 I 号～2009年 II 号は来年度予算によって画像 PDF をテキスト検索可能な PDF に置き換える、との提案がなされ、いずれも承認された。

(4) 「会報（ニューズレター）」の PDF 化について

竹中常務理事より、配付資料に基づき、日本政治学会ウェブサイトにて未掲載の会報（ニューズレター）の1号～49号・号外を来年度予算によって PDF 化することが提案され、承認された。また竹中常務理事より、事務局保存の会報に欠号があること、パンチで穴開けされて保存されていることから、保存状態のよい過去の「会報」の提供を呼びかけたいとの報告があった。

(5) 国際交流を含む今後の学会の運営と予算編成について

竹中常務理事より、現在の学会の財政状況について、配付資料に基づき、説明があった。その後、竹中常務理事より、国際交流を含む今後の学会運営と予算編成について、(i) 2016年度予算は、従来の枠組みで編成する、(ii) 2017年4月、または2018年4月より、年会費の値上げの可能性を含む新しい予算枠組みで運営する、(iii) 新しい予算枠組みを考えるために、現理事長・常務理事・会計担当幹事・次期理事長・次期常務理事・次期会計担当幹事による協議機関を設置して案を作成し、2016年6月の理事会、10月の総会で決定できるようにする、という提案があり、いずれも承認された。

〈報告事項〉

(1) 2015年度開催校からの報告

2015年度開催校・千葉大学の関谷理事（竹中常務理事代読）より、千葉大学における研究大会が大過なく開催され、大会への参加人数が、分科会・共通論題等参加者は581名、懇親会参加者は263名であったことが報告された。大会運営の決算についても、配付資料により報告がなされ、赤字額4,465円を学会から補填することが了承された。なお、今後の大会開催校の便宜のため、「開催校マニュアル」を作成しようと考えているので、気づいた点などがあれば知らせてほしいという要請があった。

(2) 開催校の準備状況について

2016年度開催校・立命館大学の佐藤理事より、現在の開催準備状況について報告があった。

(3) 各種委員会報告

① 2015年度企画委員会

大西委員長より、2015年度の研究大会が盛会のうちに終わったとの報告があった。

② 2016年度企画委員会

齋藤委員長より、配付資料に基づき、現時点における企画案が報告された。

③ 年報2015-II編集委員会

池谷委員長より、2015-II号が年内に刊行されることが報告された。竹中常務理事より、同年報の1論文の入稿・校正が遅れたことから印刷を急いだため、表紙のISBN番号とJAN (Japanese Article Number) コードの印刷に誤りが生じたので、訂正シールを貼ることで対応したとの説明があった。

④ 年報2016-I編集委員会

荻部委員長（竹中常務理事代読）より、現時点における活動状況が報告された。

⑤ 年報2017-I編集委員会

古城委員長（竹中常務理事代読）より、現時点における活動状況が報告された。

⑥ 年報2017-II編集委員会

久米委員長（竹中常務理事代読）より、現時点における活動状況が報告された。

⑦ 2016年文献委員会

田村委員長より、現時点における活動状況が報告された。

⑧ 2016年書評委員会

宇野委員長より、現時点における活動状況が報告された。2014年度第3回理事会で、地域の表記として「第三世界」という文言を用いることの妥当性について再検討を求める意見があったことに対応し、2016年の書評委員会では「比較政治・政治史（一般）」と表記する旨の報告があった。

⑨ 査読委員会

谷口委員長より、2016-I号に投稿された12本（うち特集公募論文6本）について、編集委員会の協力を受けながら査読作業を進めていることが報告された。

⑩ 研究交流委員会

堤委員長（竹中常務理事代読）より、次の2点について、配付資料に基づき、報告があった。
(i) 10月22日～12月4日に新規の分野別研究会

の募集を行ったところ、「批判的政治学研究会」(責任者・堀雅晴会員、立命館大学)、「ジェンダーと政治研究会」(責任者・三浦まり会員、上智大学)の設置申請があり、研究交流委員会で審議した結果、これを承認することとした。なお、締め切り後にも1件の申請があったが、これについては受理しないこととした。(ii)2016年度大会における分野別研究会の分科会設置申請については、現在、各責任者に案内を行っている(締め切りは12月末)。締め切り後、研究交流委員会で評価を行い、企画委員会に結果を送付する予定である。

⑪ 英文雑誌編集委員会

西川委員長より、前回理事会以降、英文雑誌への投稿は1件もないことが報告された。このような状況を脱するために、非会員からの投稿を認めてはどうかという提案が西川委員長よりなされ、議論の結果、非会員からの投稿を認めることとし、掲載可となった場合には掲載料を徴収することも承認された。

(4) IPSA 関連

田中理事から、配付資料に基づき、次の3点について報告があった。(i)IPSAの理事会が12月9日～11日にメキシコのモントレレー市で開催され、鹿毛利子会員の代理として高橋百合子会員(神戸大学)が出席した。(ii)IPSAの世界大会は、2016年7月23日～28日の日程で、トルコのイスタンブール市で開催される予定である。(iii)IPSAへの日本政治学会からの次期理事候補について、現代表の鹿毛会員の継続も視野に入れつつ、選考委員会(現理事長、次期理事長、現常務理事、国際交流委員長、現IPSA担当理事)によって候補者を3月の理事会に推薦し、同理事会の承認を得た上で、IPSA事務局に5月頃までに推薦する必要がある。

(5) 事務局報告

① 12月1日より「マイページ」のWEB会員名簿の稼働が始まったことが報告された。

② 国際文献社との業務委託契約を、2016年3月1日以降も更新することが報告された。

③ 筑波大学事務局が保管している学会資料のうち、保存期間を過ぎたものや保存の必要のないものなどを、溶解等の方法によって処分したことが報告された。

④ 『年報政治学』の論文をJ-STAGEで公開する作業を進めるに当たり、2010年度第1回理事会で、年報各号の刊行時に、特集論文執筆者に対して、編集委員長を通じて3年後の公開許諾を求めことにし、また『『年報政治学』の著作権に関する規程』で、特集論文を含むすべての『年報政治学』掲載の記事の著作権を日本政治学会に委譲してもらうことになっているが、2010年度～2014年度の特集論文の著者(85名)に対しては、念のために公開許諾の依頼をしていることが報告された。

⑤ 次期理事会への引き継ぎを視野に入れ、各委員会委員長に業務マニュアルの作成をするよう要請があった。

(6) 次回(2015年度第5回理事会)の開催について

回りの理事会は、以下の日時・場所を予定していたが、次期理事会が開催されないこと、監査の日時が未定であることから、開催予定日時については後日改めて案内するとの説明があった。また2016年6月の理事会についても日程を調整するとの発言があった。

日時：2016年3月19日(土)16時00分～18時00分(15時30分～17時30分に変更)

場所：〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1

筑波大学東京キャンパス文京校舎122教室

以上

2015年度日本政治学会第5回理事会議事録

1. 日 時：2016年3月19日（土）15時30分～16時50分
2. 場 所：〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1
筑波大学東京キャンパス文京校舎122教室
3. 出席者：辻中豊（理事長）、池谷知明、宇野重規、小川有美、河野武司、古城佳子、齋藤純一、佐藤満、田中愛治、谷口尚子、玉井清、堤英敬、戸田真紀子、西川伸一、待鳥聡史、三浦まり（以上、理事）、竹中佳彦（常務理事）、磯崎典世（以上、監事）、近藤康史、森裕城（以上、幹事）

4. 議 題 〈審議事項〉

(1) 入退会承認について

11名の入会申請があり、いずれも承認された（敬称略）。

一般会員（6名）

成田憲彦（駿河台大学）、玉利泉（鹿児島県立古仁屋高等学校）、谷口聡（中央学院大学）、高野恵亮（嘉悦大学）、Socha Marcin（ウッジ大学）、関誠（帝塚山大学）

学生会員（5名）

平林彩子（ジョンズホプキンス大学大学院）、西山溪（キャンベラ大学）、関口佐紀（早稲田大学大学院）、石間英雄（京都大学大学院）、江口和美（早稲田大学大学院）

また小坂恕会員の一般会員から学生会員への会員種別の変更が認められた。前回理事会時の会員数1,806名、この間の退会者数3名（うち申し出による退会1名、逝去による退会2名）であり、今回の入会承認者11名を加えた結果、会員数は1,814名（終身会員：153名、シニア会員：51名、一般会員：1,437名、院生会員：173名）となった。

(2) 2015年度決算案について

竹中常務理事から、一般会計・名簿作成積立金・国際交流基金のそれぞれにつき2014年度決算案が配付資料により説明された。ついで磯崎監事より、3月19日午前10時から、国際文献社にて、監査を行い、会計処理が適正に行われたことを確認したことが報告された（岡本監事は、所用のため、監査業務を行った後、監査報告を磯崎監事に委任の上、中座した）。審議の結果、2015年度決算案と監査が承認された。

(3) 2016年度予算案について

竹中常務理事から、一般会計・名簿作成積立金・国際交流基金のそれぞれにつき2016年度予算案が配付資料により説明された。審議のうえ予算案は承認された。

(4) 英文雑誌の査読料・投稿料について

西川委員長から、2015年12月の第4回理事会での「非会員からの投稿を認めることとし、掲載可となった場合には掲載料を徴収することも承認された」という決定を受けて、英文雑誌編集委員会として掲載料の具体的金額について検討したことが配付資料により報告され、非会員からの投稿については、査読料として5,000円、査読に通った場合に別途掲載料2,500円を徴収する（合計7,500円となり、年会費と同額となる）との提案があり、承認された。併せて、その旨を告知するHP上の英文案も承認された。

(5) IPSA 2016 World Congress について

辻中理事長から、2016年2月の持ち回り審議の結果を受けて、IPSA事務局に「IPSAの2016年世界大会の開催にあたっては、大会参加者の安全を最大限に確保することを最優先に考えていただきたい」との日本政治学会の見解を伝えたことが配付資料により報告され、次に田中理事からIPSAが世界大会の開催場所を変更する決定を行った経緯についての補足的な説明がなされた。そして辻中理事長から、「Istanbulでの世界大会

の開催を断念し、開催場所を他の都市に移す」というIPSAの決定を日本政治学会として支持することを表明したい旨の提案があり、承認された。

(6) IPSA 理事会の日本代表理事について

辻中理事長から、IPSA 理事会の日本代表理事について、理事長、常務理事、次期理事長、IPSA 担当理事、国際交流委員長で選考した結果が報告され、粕谷祐子会員（慶應義塾大学）に依頼する旨の提案があり、承認された。

(7) ISSC WSSF 2018福岡国際会議への協力について

辻中理事長から、日本学術会議が会員となっている世界の社会科学の世界学会のコンソーシアムであるISSC (International Social Science Council) から2018年福岡国際会議への協力要請があったことが配付資料により報告され、日本政治学会としての協力のあり方は次期理事会に委ねることが承認された。

〈報告事項〉

(1) 開催校の準備状況について

2016年度開催校・立命館大学の佐藤理事から、現在の開催準備状況について配付資料により報告があった。

(2) 各種委員会報告

① 2016年度企画委員会

齋藤委員長より、2016年度研究大会の応募・企画状況について、現時点で、共通論題：1、企画委員会企画：13、研究交流委員会企画：8、公募企画：11、自由論題：11、国際交流委員会企画：1のセッションを予定していること、ポスターセッションは8件応募が来ていることが、配付資料により報告された。

② 年報2016-I 編集委員会

荻部委員長（竹中常務理事代読）より、現時点における活動状況が報告された。

③ 年報2016-II 編集委員会

待鳥委員長より、現時点における活動状況が報

告された。

④ 年報2017-I 編集委員会

古城委員長より、現時点における活動状況が報告された。

⑤ 年報2017-II 編集委員会

久米委員長（竹中常務理事代読）より、現時点における活動状況が報告された。

⑥ 2016年文献委員会

田村委員長（竹中常務理事代読）より、現時点における活動状況が報告された。

⑦ 2016年書評委員会

宇野委員長より、現時点における活動状況が報告された。

⑧ 査読委員会

谷口委員長から、現時点における活動状況が配付資料により報告された。『年報政治学 2016-I』の投稿数は13本（特集公募論文6本、独立公募論文7本）あり、結果は「掲載可」が4本、「査読継続中」が2本、「掲載不可」が7本であった。『年報政治学2016-II』の投稿数（3月19日時点）は7本とのことであった。

⑨ 研究交流委員会

堤委員長より、10月24日から12月末にかけて、各分野別研究会から2016年度大会における分科会設置申請を受け付けたところ、9つの研究会から応募があり、応募締め切り後、研究交流委員による評価を行い、その結果を企画委員会に送付した旨、報告された。

⑩ 国際交流委員会

三浦委員長より、現時点における活動状況が報告された。日韓の交流については、2015年12月に開催された韓国政治学会に池日韓交流小委員会委員長を派遣したとのことである。日本政治学会2016年度研究大会については、「若者の政治参加」をテーマとするパネルを1つ設ける予定であり、韓国から2名、イギリスから1名が報告者として

学 会 ニ ュ ー ス

来日するとのことである。

① 英文雑誌編集委員会

西川委員長より、前回理事会以降も英文雑誌に投稿がないことが報告された。

(3) 事務局報告

竹中常務理事より、『年報政治学』2010年Ⅰ号～2012年Ⅱ号のJ-STAGEで公開されたことが報告された。

(4) 理事会・総会の開催について

以下の開催予定が報告された。

◇2016年度第1回理事会

日時：2016年6月4日(土)14時00分～16時00分

場所：〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1
筑波大学東京キャンパス文京校舎432教室

◇2016年度第2回理事会

日時：2016年10月1日(土)12時20分～13時00分

場所：〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町2-150
立命館大学大阪いばらきキャンパス

◇2016年度総会

日時：2016年10月2日(日)11時40分～12時25分

場所：〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町2-150
立命館大学大阪いばらきキャンパス

以上

学 会 ニ ュ ー ス

日本政治学会 平成27年度収支計算書（会計別）

平成27年3月1日から平成28年2月29日まで

（一般会計）

（単位：円）

科 目	予算額	決算額	差額	備 考
【経常収入の部】				
I 会費収入	11,500,000	11,585,000	85,000	
II 雑収入	1,000	79,088	78,088	
経常収入合計（A）	11,501,000	11,664,088	163,088	
【経常支出の部】				
I 事業費	8,960,000	7,465,078	△ 1,494,922	
1 研究会開催費	1,490,000	1,475,426	△ 14,574	
研究会準備金	600,000	600,000	0	
大会プログラム集作成費	620,000	604,454	△ 15,546	
研究大会関連業務費	220,000	270,972	50,972	
報告者礼金	50,000	0	△ 50,000	
2 委員会経費	770,000	159,534	△ 610,466	
年報委員会	200,000	0	△ 200,000	
査読委員会	70,000	20,000	△ 50,000	
企画委員会	70,000	30,000	△ 40,000	
研究交流委員会	70,000	0	△ 70,000	
文献委員会	140,000	28,069	△ 111,931	
書評委員会	70,000	25,164	△ 44,836	
英文雑誌編集委員会	100,000	20,649	△ 79,351	
選挙管理委員会	50,000	35,652	△ 14,348	
3 印刷費	5,700,000	5,065,739	△ 634,261	
会報印刷費	400,000	343,288	△ 56,712	
年報印刷費	4,800,000	4,722,451	△ 77,549	
英文雑誌作成費	500,000	0	△ 500,000	
4 年報委員会への補助費	300,000	72,950	△ 227,050	
5 J-STAGE 関連経費	200,000	214,976	14,976	
6 選挙管理費	500,000	476,453	△ 23,547	
II 管理費	3,770,000	3,631,387	△ 138,613	
1 理事会経費	50,000	36,398	△ 13,602	
2 事務局経費	140,000	62,600	△ 77,400	
運営費	50,000	31,498	△ 18,502	
人件費	40,000	17,850	△ 22,150	
経常費	50,000	13,252	△ 36,748	
事務局移転費	0	0	0	
3 国際文献社業務委託費	3,580,000	3,532,389	△ 47,611	
基本業務委託費	3,580,000	3,532,389	△ 47,611	
法人格取得費	0	0	0	
4 前年度会計監査料	0	0	0	
経常支出合計（B）	12,730,000	11,096,465	△ 1,633,535	
経常収支差額（C）=（A）-（B）	△ 1,229,000	567,623	1,796,623	
【その他資金収入の部】				
その他資金収入合計（D）	0	0	0	
【その他資金支出の部】				
I 名簿作成積立金	0	0	0	
II 国際交流基金積立金	858,152	0	△ 858,152	
III 予備費	700,000	377,931	△ 322,069	
その他資金支出合計（E）	1,558,152	377,931	△ 1,180,221	
当期収支差額（F）=（C）+（D）-（E）	△ 2,787,152	189,692	2,976,844	
前期繰越収支差額（G）	19,622,550	19,622,550	0	
次期繰越収支差額（H）=（F）+（G）	16,835,398	19,812,242	2,976,844	

学 会 ニ ュ ー ス

(名簿作成積立金)

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差額	備 考
【経常収入の部】				
I 本年度積立金	0	0	0	
II 受取利息	0	122	122	
経常収入合計 (A)	0	122	122	
【経常支出の部】				
I 事業費	600,000	338,975	△ 261,025	
1 名簿作成費	0	0	0	
2 事前調査費	600,000	338,975	△ 261,025	
経常支出合計 (B)	600,000	338,975	△ 261,025	
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	△ 600,000	△ 338,853	261,147	
【その他資金収入の部】				
その他資金収入合計 (D)	0	0	0	
【その他資金支出の部】				
その他資金支出合計 (E)	212,930	0	△ 212,930	
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 812,930	△ 338,853	474,077	
前期繰越収支差額 (G)	812,930	812,930	0	
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	0	474,077	474,077	

(国際交流基金)

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差額	備 考
【経常収入の部】				
I 本年度積立金	858,152	0	△ 858,152	
II 受取利息	0	0	0	
III 雑収入	0	0	0	
経常収入合計 (A)	858,152	0	△ 858,152	
【経常支出の部】				
I 事業費	3,425,000	2,187,741	△ 1,237,259	
1 国際交流プログラム助成費	1,000,000	995,340	△ 4,660	
2 企画委員会国際交流セッション	35,000	0	△ 35,000	
3 国際交流委員会経費	70,000	55,781	△ 14,219	
4 IPSA 分担金	520,000	514,990	△ 5,010	
5 IPSA 執行委員渡航費補助	1,400,000	621,630	△ 778,370	
6 大会開催校補助	100,000	0	△ 100,000	
7 国際シンポジウム開催費	300,000	0	△ 300,000	
経常支出合計 (B)	3,425,000	2,187,741	△ 1,237,259	
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	△ 2,566,848	△ 2,187,741	379,107	
【その他資金収入の部】				
その他資金収入合計 (D)	0	0	0	
【その他資金支出の部】				
I 予備費	500,000	0	△ 500,000	
その他資金支出合計 (E)	500,000	0	△ 500,000	
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 3,066,848	△ 2,187,741	879,107	
前期繰越収支差額 (G)	3,066,848	3,066,848	0	
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	0	879,107	879,107	

学 会 ニ ュ ー ス

日本政治学会 平成27年度収支計算書（総括）

平成27年3月1日から平成28年2月29日まで

（単位：円）

科 目	一般会計	名簿作成積立金	国際交流基金	合計
【経常収入の部】				
I 会費収入	11,585,000			11,585,000
II 雑収入	79,088	122	0	79,210
III 本年度積立金	0	0	0	0
経常収入合計 (A)	11,664,088	122	0	11,664,210
【経常支出の部】				
I 事業費	7,465,078	338,975	2,187,741	9,991,794
1 研究会開催費	1,475,426			1,475,426
研究会準備金	600,000			600,000
大会プログラム集作成費	604,454			604,454
研究大会関連業務費	270,972			270,972
報告者礼金	0			0
2 委員会経費	159,534			159,534
年報委員会	0			0
査読委員会	20,000			20,000
企画委員会	30,000			30,000
研究交流委員会	0			0
文献委員会	28,069			28,069
書評委員会	25,164			25,164
英文雑誌編集委員会	20,649			20,649
選挙管理委員会	35,652			35,652
3 印刷費	5,065,739			5,065,739
会報印刷費	343,288			343,288
年報印刷費	4,722,451			4,722,451
英文雑誌作成費	0			0
4 年報委員会への補助費	72,950			72,950
5 J-STAGE 関連経費	214,976			214,976
6 選挙管理費	476,453			476,453
7 名簿作成事業費		338,975		338,975
名簿作成費		0		0
事前調査費		338,975		338,975
8 国際交流基金事業費			2,187,741	2,187,741
国際交流プログラム助成費			995,340	995,340
企画委員会国際交流セッション			0	0
国際交流委員会経費			55,781	55,781
IPSA 分担金			514,990	514,990
IPSA 執行委員渡航費補助			621,630	621,630
大会開催校補助			0	0
国際シンポジウム開催費			0	0
II 管理費	3,631,387			3,631,387
1 理事会経費	36,398			36,398
2 事務局経費	62,600			62,600
運営費	31,498			31,498
人件費	17,850			17,850
経常費	13,252			13,252
慶弔費	0			0
事務局移転費	0			0
3 国際文献社業務委託費	3,532,389			3,532,389
基本業務委託費	3,532,389			3,532,389
法人格取得費	0			0
4 前年度会計監査料	0			0
経常支出合計 (B)	11,096,465	338,975	2,187,741	13,623,181
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	567,623	△ 338,853	△ 2,187,741	△ 1,958,971
【その他資金収入の部】				
その他資金収入合計 (D)	0	0	0	0
【その他資金支出の部】				
I 名簿作成積立金	0			0
II 国際交流基金積立金	0			0
III 予備費	377,931			377,931
その他資金支出合計 (E)	377,931	0	0	377,931
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	189,692	△ 338,853	△ 2,187,741	△ 2,336,902
前期繰越収支差額 (G)	19,622,550	812,930	3,066,848	23,502,328
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	19,812,242	474,077	879,107	21,165,426

学 会 ニ ュ ー ス

貸借対照表総括表

平成28年2月29日現在

(単位：円)

科 目	一般会計	名簿作成積立金	国際交流基金	合計
【資産の部】				
流動資産				
現金預金	20,215,260	474,077	386,335	21,075,672
現 金	0	0	0	0
振替貯金	15,670,149	0	0	15,670,149
普通預金	4,545,111	474,077	386,335	5,405,523
前払費用	0	0	492,772	492,772
流動資産合計	20,215,260	474,077	879,107	21,568,444
固定資産				
固定資産合計	0	0	0	0
資 産 合 計	20,215,260	474,077	879,107	21,568,444
【負債の部】				
流動負債				
前受金 次年度分会費払い込み	84,500			84,500
未払費用	318,518			318,518
流動負債合計	403,018	0	0	403,018
固定負債				
固定負債合計	0	0	0	0
負 債 合 計	403,018	0	0	403,018
【正味財産の部】				
前期繰越正味財産	19,622,550	812,930	3,066,848	23,502,328
当期正味財産増加額(減少額)	189,692	△ 338,853	△ 2,187,741	△ 2,336,902
正味財産合計	19,812,242	474,077	879,107	21,165,426
負債・正味財産合計	20,215,260	474,077	879,107	21,568,444

学 会 ニ ュ ー ス

財産目録

平成28年2月29日現在

(単位：円)

科 目	一般会計	名簿作成積立金	国際交流基金	合計
【資産の部】				
流動資産				
現金預金 手許有高	20,215,260	474,077	386,335	21,075,672
現金	0			0
振替貯金 ゆうちょ銀行 019 店	15,670,149			15,670,149
普通預金 ゆうちょ銀行 008 店	4,545,111			4,545,111
三菱東京 UFJ 銀行神保町支店		474,077		474,077
三菱東京 UFJ 銀行神保町支店			386,335	386,335
前払費用 IPSA2016 分担金			492,772	492,772
流動資産合計	20,215,260	474,077	879,107	21,568,444
固定資産				
固定資産合計	0	0	0	0
資 産 合 計	20,215,260	474,077	879,107	21,568,444
【負債の部】				
流動負債				
前受金 次年度分会費払い込み	84,500			84,500
未払費用 委託費他	318,518			318,518
流動負債合計	403,018	0	0	403,018
固定負債				
固定負債合計	0	0	0	0
負 債 合 計	403,018	0	0	403,018
【正味財産の部】				
前期繰越正味財産	19,622,550	812,930	3,066,848	23,502,328
当期正味財産増加額 (減少額)	189,692	△ 338,853	△ 2,187,741	△ 2,336,902
正味財産合計	19,812,242	474,077	879,107	21,165,426
負債・正味財産合計	20,215,260	474,077	879,107	21,568,444

平成27年度収支計算書、貸借対照表総括表、及び財産目録は、以上の通り相違ありません。

平成28年3月19日

監事

磯崎典世

Ⓔ

監事

岡本哲和

Ⓔ

*「会報」はwebで公開されるため、監査報告の監事は氏名の印字のみとし、署名および印影は省略しております。

学 会 ニ ュ ー ス

日本政治学会 平成28年度予算(案)

平成28年3月1日から平成29年2月28日まで

(一般会計)

(単位：円)

科目	予算額	備考
【経常収入の部】		
Ⅰ 会費収入	11,500,000	
Ⅱ 雑収入	50,000	
経常収入合計 (A)	11,550,000	
【経常支出の部】		
Ⅰ 事業費	12,660,000	
1 研究大会開催費	1,650,000	
研究大会準備金	700,000	
大会プログラム集作成費	620,000	
研究大会関連業務費	280,000	
報告者礼金	50,000	
2 委員会経費	790,000	
年報委員会	200,000	
査読委員会	70,000	
企画委員会	70,000	
研究交流委員会	70,000	
文献委員会	140,000	
書評委員会	70,000	
国際交流委員会	70,000	
英文雑誌編集委員会	100,000	
選挙管理委員会	0	
3 印刷費	6,350,000	
会報印刷費	400,000	
会員一覧印刷費	150,000	
年報印刷費	4,800,000	
英文雑誌作成費	1,000,000	
4 年報委員会への補助費	500,000	
5 国際交流事業費	2,635,000	
国際交流プログラム助成金	1,000,000	
企画委員会国際交流セッション	35,000	
IPSA 分担金	500,000	
IPSA 執行委員渡航費補助	1,000,000	
国際シンポジウム開催費	100,000	
6 J-STAGE 関連経費	370,000	
7 ホームページ関連経費	365,000	
会報バックナンバーの掲載	65,000	
改訂費	300,000	
8 選挙管理費	0	
Ⅱ 管理費	3,870,000	
1 理事会経費	50,000	
2 事務局経費	240,000	
運営費	50,000	
人件費	40,000	
経常費	50,000	
事務局移転費	100,000	
3 国際文献社業務委託費	3,580,000	
業務委託費	3,580,000	
法人格取得費	0	
4 前年度会計監査料	0	
経常支出合計 (B)	16,530,000	
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	△ 4,980,000	
【その他資金収入の部】		
Ⅰ 名簿作成積立金	474,077	
Ⅱ 国際交流基金積立金	879,107	
その他資金収入合計 (D)	1,353,184	
【その他資金支出の部】		
Ⅰ 名簿作成積立金	0	
Ⅱ 国際交流基金積立金	0	
Ⅲ 予備費	500,000	
その他資金支出合計 (E)	500,000	
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 4,126,816	
前期繰越収支差額 (G)	19,812,242	
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	15,685,426	

学 会 ニ ュ ー ス

(名簿作成積立金)

(単位：円)

科 目	予算額	備考
【経常収入の部】		
Ⅰ 本年度積立金	0	
Ⅱ 受取利息	0	
経常収入合計 (A)	0	
【経常支出の部】		
Ⅰ 事業費	0	
1 名簿作成費	0	
2 事前調査費	0	
経常支出合計 (B)	0	
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	0	
【その他資金収入の部】		
その他資金収入合計 (D)	0	
【その他資金支出の部】		
Ⅰ 一般会計	474,077	
その他資金支出合計 (E)	474,077	
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 474,077	
前期繰越収支差額 (G)	474,077	
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	0	

(国際交流基金)

(単位：円)

科 目	予算額	備考
【経常収入の部】		
Ⅰ 本年度積立金	0	
Ⅱ 受取利息	0	
経常収入合計 (A)	0	
【経常支出の部】		
Ⅰ 事業費	0	
経常支出合計 (B)	0	
経常収支差額 (C) = (A) - (B)	0	
【その他資金収入の部】		
その他資金収入合計 (D)	0	
【その他資金支出の部】		
Ⅰ 一般会計	879,107	
その他資金支出合計 (E)	879,107	
当期収支差額 (F) = (C) + (D) - (E)	△ 879,107	
前期繰越収支差額 (G)	879,107	
次期繰越収支差額 (H) = (F) + (G)	0	

*平成27年度予算で、「平成28年2月28日まで」は、「平成28年2月29日まで」の誤りでした。
お詫びして訂正します。

事務局より

会費納入についてのお願い

訃 報

年会費をまだ納入されていない方が若干おられます。何とぞ速やかにご協力のほど、お願いいたします。一般会員は7,500円、学生会員は5,000円です。また、シニア会員（会費5,000円）および終身会員（一時金30,000円又は20,000円）の制度がございますので、ぜひご利用ください。郵便振替により、以下の口座番号、加入者名あてに納入をお願いいたします。

口座番号：00120-2-500664

加入者名：日本政治学会

なお、2016年度末までに2016年度および2015年度の会費を納入されなかった会員の方は、「日本政治学会規約」第8条に基づき、自動的に退会扱いとなりますので、ご注意ください。会費の納入状況につきましては、マイページ (<https://www.bunken.org/jpsa/mypage/>) でご確認ください。

下記の会員が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

- 砂田一郎氏 学習院大学法学部前教授 アメリカ政治、アメリカ地域研究 1937年生
京極純一氏 東京大学名誉教授 日本政治論、政治意識論 1924年生
中拂 仁氏 国士舘大学政経学部教授 日本政治思想史（近世）、政治学 1946年生

本号の目次

1. 日本政治学会2016年度研究大会について…………… 1
2. 日本政治学会2016年度研究大会プログラム…………… 2
3. 研究大会報告論文の公開・入手方式について…………… 10
4. 研究大会開催校（立命館大学）からのお知らせ…………… 10
5. 『年報政治学』論文公募のお知らせ…………… 11
6. 英文雑誌論文公募のお知らせ…………… 13
7. 理事会議事録…………… 14
8. 平成27年度決算(案)…………… 20
9. 平成28年度予算(案)…………… 25
10. 事務局より…………… 27

2016年6月15日発行

発行 日本政治学会事務局

竹 中 佳 彦

〒305-8571 つくば市天王台1-1-1

筑波大学人文社会系（国際日本研究専攻事務室気付）

日本政治学会事務局

FAX: 029-853-7454

E-mail: jpsa-office@ml.cc.tsukuba.ac.jp

<http://www.jpsa-web.org/>

(株)国際文献社

日本政治学会担当（住所変更・会費）

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5

Phone: 03-5937-0317

FAX: 03-3368-2822

E-mail: jpsa-post@bunken.co.jp

印 刷 (株)国際文献社